



クリスマス・イブ 祝会

2008年12月24日(水)
(夜 7:00~8:30)
司会・進行 中川彦市兄

テーマ クリスマスをあなたに！

- ①賛 美 新聖歌76 「もろびとこぞりて」
- ②賛 美 新聖歌75 「神のみ子は」
- ③ゲーム 後だしジャンケン、ハイポーズ など
- ④コーラス (ヤング)「スペシャルデー」、「小さな手」
- ⑤よみ聞かせ 「3本の木」
- ⑥賛 美 新聖歌78 「荒野の果てに」
- ⑦聖書朗読 イザヤ 9:1~2、6
- ⑧シヨート・メッセージ
「大きな光」(渡辺貞雄 牧師)
- ⑨賛 美 新聖歌80 「天なる神には」
- ⑩キャンドル・サービス
- ⑪賛 美 新聖歌77 「きよしこの夜」
(賛美のあとは、静かに黙祷で終わります)



イザヤ 9:1 しかし、苦しみのあった所に、やみがなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は、はずかしめを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダン川のかなた、異邦人のガリラヤは光栄を受けた。

イザヤ 9:2 やみの中で歩んでいた民は、大きな光を見た。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照った。



イザヤ 9:6 ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちのために与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

「きよしの夜」(Silent Night)物語

アルプスの心もとオーストリアにオーベンドルフという小さな村があります。この地方は映画「サウンド・オブ・ミュージック」の舞台となった風光明媚なところであり、また楽聖モーツァルトの誕生したザルツブルグにも近いところです。目を上げるとアルプスの山がそびえ、山々には昔から美しい歌声がこだましておりました。



1818年のクリスマスの前夜、村のニコラウス教会は明日に控えたクリスマスのため準備中、この教会の古いオルガンが壊れてしまいました。ねずみががじたせいでした。若い牧師のヨセフ・モア先生はオルガンをあきらめてギターによる新しい歌詞をつくり、近くに住む親友のフランツ・グルーバーという先生のところに行き、一気に作曲していただいたのです。



明るる日のクリスマスには、さっそくその新しい曲をギター伴奏で、村の合唱隊のコーラスをバックにし2重唱で歌いました。主キリストの降誕を歌ったこの賛美歌は、当時の村の人々の心に深く印象付けられたのです。村人たちは老若男女を問わず、この歌と詞を忘れず、いたるところで口ずさむようになったのです。

翌年の春が訪れたとき、アルプスの雪も溶けはじめたころ、こわれたオルガンを修理するために、チラー谷に住むオルガン造りのマウラッヒャーさんがこの会堂にやってきました。するとあちこちで村人たちがとても聖らかな曲を口ずさんでいたのです。マウラッヒャーさんはその歌を聞いているうちに、自分でも歌うようになりました。このオルガン直しの行く先々で、村から村へと、この歌が伝えられていきました。音楽好きの子ロルの人々ですから、この新しい歌はすぐ親しまれていきました。やがて、アルプスを越えてヨーロッパ、大西洋を越えてアメリカや東洋の国々でも歌われ、今や全世界に有名な曲となったのです。クリスマスには必ず歌う「きよしの夜」はこのようにして生れたのでした。

ようこそ お出で下さいました。そのほか年末年始には・・・

☆12月28日(日) 合同組会 (AM10:00~10:45)

みんなで一年を、感謝して語り合います。

☆12月28日(日) 年末感謝礼拝

(AM11:00~12:15)

みんなで一年をふりかえり、感謝します。

☆元旦礼拝 2009年1月1日(木)

(PM 1:30~3:00)

新しいスタートは教会でいかがでしょうか!

